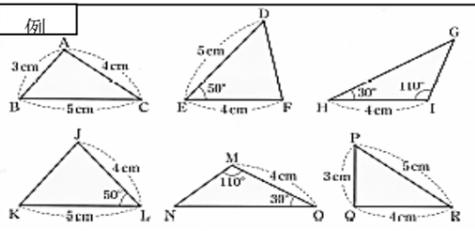
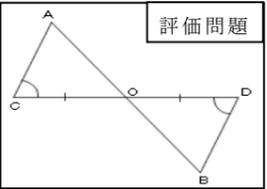


花巻市立湯本中学校第2学年

本時：4章 2節 ②三角形の合同条件（教科書P106）

	学習活動	指導上の留意点○ 評価●
導入 (7分)	<p><b>「わかる授業」の4「学習課題の把握」の場面</b></p> <p>2 問題の把握</p> <p>T : 求めることは何ですか。 S<sub>1</sub> : 合同な三角形を見つけることです。 T : どうやって見つけますか。 S<sub>2</sub> : <b>三角形の合同条件を使います。</b> T : どれとどれが合同になりそうですか。 S<sub>3</sub> : <math>\triangle ABC</math> と <math>\triangle PQR</math> です。 T : 何故ですか。 S<sub>3</sub> : 3組の辺の長さがそれぞれ等しいからです。</p> <p>導入の問題を参考に結果と方法の見直し</p> 	<p>○ 学習課題の把握</p> <p>2つの三角形が合同であることを、合同条件に当てはめて説明できるようになる。</p>
	<p><b>「わかる授業」の7「本時の学習を振り返る場面」</b></p> <p>8 評価問題</p>  <p>○他人と相談せず、自力で解く。</p> <p>○板書を利用した学習内容、学習過程についての振り返りをする。</p> <p>9 振り返り</p>  <p>今日の授業でわかったこと、できるようになったこと、自分にとって大切だと思ったことは何ですか？</p> <p>S<sub>4</sub> : 合同な三角形について、辺や角に着目して説明することができた。 S<sub>5</sub> : 三角形の合同条件を使ってしっかりと説明できるようになった。 S<sub>6</sub> : 分かっている部分が2つでも、あとは考えて導き出せることが分かった。</p>	<p>○「基礎計算力」の向上を図ること</p> <p>○「数学的な見方や考え方」の育成を重視しています。また、これらの力を付けるための手立てとして「わかる授業」を指定し、今年度、その取組を進めてきました。これは、普通の授業として毎日当たり前に行っていた授業スタイルです。</p> <p>本研究では、「わかる授業」を目指した具体的取組の10項目のうち、</p> <p>・4「学習課題の把握」</p> <p>・7「本時の学習を振り返る場面」</p> <p>の2点に焦点を当てて進めてきました。先生方に「わかる授業」のイメージをつかんでもらい、その実践を通して生徒たちの力を育成して欲しいと考えています。</p> <p>「わかる授業」の実践が私たちの授業改善につながり、また、「授業がわかる」という生徒が増えることを期待しています。</p>

Ⅳ おわりに

研究の具体については、岩手県立総合教育センターのWebからダウンロードできます。  
( <http://ww1.iwate-ed.jp/> )

研究主題

# 数学科の 身に付けさせたい力を育てる指導法について —「わかる授業」の具体化を通して—

【研究担当者】 千葉 重徳 鈴木 裕

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail [kyouka-r@center.iwate-ed.jp](mailto:kyouka-r@center.iwate-ed.jp)

I はじめに

全国学力・学習状況調査などの結果から、岩手県では中学校数学科の授業改善に向けた取組として、学校教育指導指針に「数学的活動を通じた指導の充実を図ること」を掲げています。特に、

- ・「基礎計算力」の向上を図ること
- ・「数学的な見方や考え方」の育成

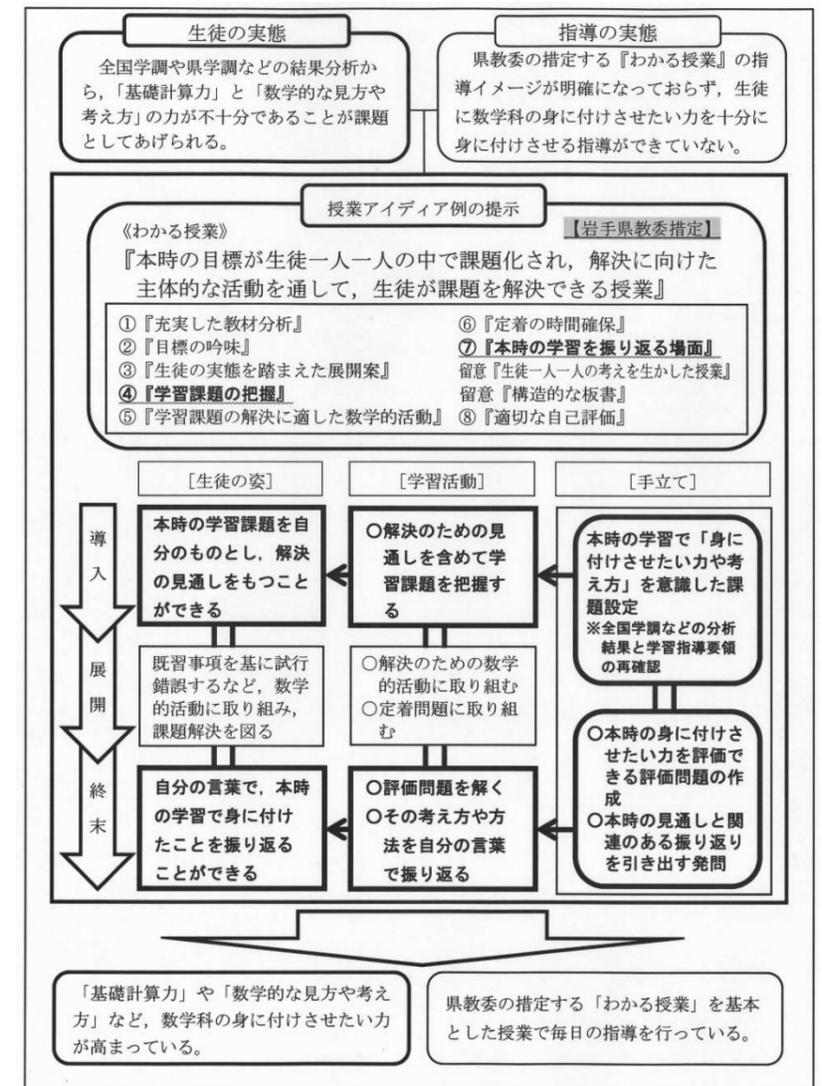
を重視しています。また、これらの力を付けるための手立てとして「わかる授業」を指定し、今年度、その取組を進めてきました。これは、普通の授業として毎日当たり前に行っていた授業スタイルです。

本研究では、「わかる授業」を目指した具体的取組の10項目のうち、

- ・4「学習課題の把握」
- ・7「本時の学習を振り返る場面」

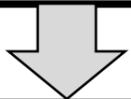
の2点に焦点を当てて進めてきました。先生方に「わかる授業」のイメージをつかんでもらい、その実践を通して生徒たちの力を育成して欲しいと考えています。

「わかる授業」の実践が私たちの授業改善につながり、また、「授業がわかる」という生徒が増えることを期待しています。



数学科の身に付けさせたい力を育てる指導法についての基本構想図

数学科の身に付けさせたい力 = 「基礎計算力」「数学的な見方や考え方」



《わかる授業》 『本時の目標が児童生徒一人一人の中で課題化され、解決に向けた主体的な活動を通して、児童生徒が課題を解決できる授業』 の実践を通して

**4 「学習課題の把握」の場面**

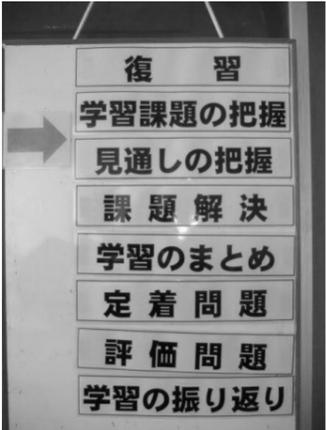
**学習課題**

- 一貫性**
  - ・本時の目標を吟味します。(学習指導要領解説や『いわてスタンダード』などが参考になります。)
  - ・「本時の目標・評価規準・学習課題・まとめ」に一貫性をもたせます。
- 必要感**
  - ・既習事項との関連を重視して学習課題を設定します。(既習事項との相違点に注目します。)
  - ・生徒にとって身近な事象を教材にします。
- 時間**
  - ・学習課題設定までの時間を 5分程度 にします。

**見通し**

「見通し」をもたせることが、生徒の主体性を引き出し、学習課題の解決につながります。

- ア 学習過程の見通し
- イ 結果の見通し
- ウ 解決方法の見通し  
(既習事項との共通点から)



**7 「本時の学習を振り返る場面」**

**まとめ**

- 「まとめ」は学習課題に対応するものと捉えます。
- 主に、学習課題が解決した後に行います。
- 「何がわかったか」、「何ができるようになったか」という視点になることが多くなります。

**振り返り**

- 構造的な板書を心掛け、黒板上をたどりながら本時の学習の流れを振り返ります。
- 生徒自身に行わせる振り返りとして、次のような視点が考えられます。
  - ・「解決するよさは何か」という「関心・意欲・態度」の視点
  - ・「どのようにして解決したか」という「見方や考え方」の視点
  - ・「何かできるようになったか」という「技能」の視点
  - ・「何がわかったか」という「知識・理解」の視点
- 評価問題に取り組みます。
  - ・作題においては、Gアップシートや全国学調などの評価問題が参考になります。
  - ・本当に評価したい力を評価できるよう、シンプルな問題とします。
  - ・普段の授業に位置付けられるよう、3分程度で終わられる問題とします。

**教師が、「見通し」や「振り返り」などを授業に明確に位置付けることで、生徒のそれらに対する意識が向上し、「わかる授業」につながります。**